種の為業

上下

イ13
957

イ13
957

イ 13
957

香川景樹大人歌集

桂の葉集 全二冊

東都書肆 青雲堂 英文藏梓
下谷御成道

ゆるすとこのくうひゃくまてるをとふそう方よ
ゝしひつのそをようつをおきねさる我おとゝ和尚を
ゝ和歌をる人はをよりをよりしていかたをう
ゝをゝり岩川は義をむをを人信敬よいをふゝり
しとゝひをおをせしよいとゝしくかゝみのをの芳川をや
ゝゝをむをおいをゝをんちせゝ性をゝ比みいいる方
おゝをゝ使をてゆくふいゝをやおゝゆるをゝしゝを
みもあゝねをいゝをみをゝよひをゝをゝをゝをゝをゝすをの
ゝゝゝをゝをゝて大をゝこゝをゝをゝをゝをゝおよゝゝをゝる以後
猛園一枝ふとを名つくゝ雪くおもひしをとをゝをゝ

ゝをゝしく安ゆるゝ〳〵をとをゝかゝゝをゝをの芳ゝ
をゝを葉をををゝをゝひをゝ雪をゝ和をゝをゝをゝをゝ
ゝ一の猛をゝ芳をゝ葉をゝをゝをゝて五〳〵ゝ
ゝをを子を一を保牛四年九月廿七日の天日蓮ゝを
乃ゝゝ仲田孔中をゝ

天正十三年二月
彦房仙次郎氏寄贈

春歌

年内立春

ひとせのくるもせもすてゝ立春は月日ぞ今ぞ春
やすけうらふもすてゝれハつねをひくもこゝのゝ松ぞ

立春

とゝまちてこゝろ一つの春をいる日新も神代ぶり
久方ぞ春を待よ松のみどりねもまさるとハさきそうふ

元日いとけなくまうをよおりとんとひとりよのふ

立春の雪をうゝそくひふへよ行ぬ春ちまてとゝそやん

立春暁

[illegible]

[illegible]

初夏

[illegible]

河初春

[illegible]

関路早春

[illegible]

早春梅

[illegible]

早春松

[illegible]

初春見鶴

[illegible]

春色深水

[illegible]

春日望山

かすがの山のはつゝかすみ甲山とりなびきうれ
欲拝不限年といふことを
あすよりはくさもなびきのおもかげもうつる大松ゝのも
子日
後の日とも知ぬたゝく社侯松にあかのひくまゝ万せう引
いさゝゝて年ふるまつ君よかさゝむ二葉よりたのもしとせと
山岳子日
春山よ小松ひき河是松人とは千とをかねてゝちせう
後の日てひきもひ集る山とは松のかきもの小松こゝり

野遊よ子日せるところ
限なくさゝえ心来のをめよ松やゝ更をひゝむとゝゝすゝ
若菜
いそのみはいそのゝ山の後よてはむやわれのゝてよ
松ゝうえれ色かゝみゝゝつゝゝてゝゝゝゝゝゝ
かゝみよりゝゝれるゝをゝゝ
ゝゝゝゝ神よあゝ是ゝうれゝこのわゝゝれゝ
聖よわゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝ寺ゝゝ神よりゝゝ山ゝゝゝゝゝゝゝゝ
霞

秋ふかくゐもちそふ山のまに霧いく重来ひて老の咲しら菅
一の川ちきれ言根よみそ[illegible]る霧かしら波山をあくがれうよ恋
竹矢ふるやそうまの山よりみ川ハとかを秋よれば霧ふる

山霞

はるかなる雲の嵐ハ山きてて万ゐ松かをよりう霧ふる

野霧

見人ともいはくとたうとたうれすをの野原ハうをみをうう

園霞

夏くやとゝゝも岩辺のよりうをふをてしるを霧れ

松上霧

二木とも松ハうれれゝゝ角のをみハよをそる雲ふる
あをふくはくふりく松をの色をう山のをしをれ

霞傳遠樹

小松原はるゝよとかを松ハうれををの山よ霧をみ川

水郷霞

はるをの柳のをやれをの百ちうをみをこゆる舟ふかの里

海辺霧

秋ふくらを霧むをみをハ口ちあはをひうよをやを立ふ舟
かほやく竹の中をれをををなひくやををの霧をん

海上霞

わすれぬるのそらはひとつなみゆれてもとをちうしほ立雲うふ

霞蘭行舟

鈴ふくなみちの上をやうそむしんみえぬ数そへ沖のたう舟

湖上霞

あさぼらけうつる雲よりにほの海のそこも中ぬえまうち

霧

霧はさとよいてそ鈴雲をみひく山のまを行くうち并

鈴ふくみやもへいてむ霧のちうえふうを景のへだてと

なれぬまはなくとはまよ霧はさてゐるぬまのうしまか

朝霧

鈴霧はかせのをやれ信をれかすまうきく霧の所

鈴霧

山うれまのうれと霧のふく一くをうれたをふれうわ

伊の国のなをのまれ鈴うをけるむと霧ふく

夕霧

ゆ月かをやこうう杉うえはたれてうるうひ山の雲

雲中霧

まうこうてはを雲れへ霧のうくねをきゆうをけをる

杉近霧

神ゆれてうをとうむとおひひ雲の杉はかつえよ霧の雲

柳より梅かく

梅のなさてころ〻枝にやとれハそなたはなうるふ

さつきまれ柳のいとよりもれはいまるこゝにそ〻ろ〻梅ハ

ちるひくまれなるよいあさやられそなとうつる梅の影

外出梅

わうやとの外れやとたうさめてまるる梅ハ

竹より梅ふく

鶯ふく雪よりひろ〻呉竹をまそかる梅の影

松より雪みれうり梅とひさるゝ

梅ハ咲ていつくよりうるゝ花とゝみつや松のあと雪

鶯呼客

梅の花ハ家やとふるに梅はむみはちそる花の花ゆう

梅入野年後

まれハ谷ちいつる梅のえをゆうふうるるれ

梅を歌斧

うれしさいふふうれんよを思ひそれぬ梅のまり

梅を考稽門来花下

梅はるるやとよるてうれハ雪をとのこるゝ山そ〻れ

遠居梅

うるひきのろ〻ふるもゝ古梅のみ菱そのうちふ

あるかなき

あさぼらけ梅にうもれて雪見ばかりよりうかさりはて

残雪

なかひらの月をしらまゆみの紫ちりよ雪とみえて書む雪ぶ

梅花さかりなる雪ハやまとをむとそやたえはてるらん

わかひらるまてちる

夏ふれいきねよはる雪られハ引ゆるもかさよ秋ちれん

紅葉ふ

夜をこめ

梅薫風

さき風よはつあくれて梅花いとと人をもおとろかすうれ

夜梅

てる月のたかるあるをかしくよいろを梅ハ未ハさらまし

美木梅

おとし咲ワ木ハうハ言ハ咲つよとも咲ハ言ハ花やをそうん

閑中梅

人ハいを言ハるとまるうねうれ梅ハさりになりまりめを

挿沈梅

かさをてとよをとりくもるを梅花をとるる方ふみつくをむ

雪中梅

後はなうう〳〵よも梅のこずえ〳〵雪をうつむくられ

雪中梅花

みワさせは花と雪とようつられてとゝ此雪さてもたゝ川の里

梅の枝数竹のそへるさま

梅うゝとけさとうみわ〳〵さきそめ此みつのそこちゝ此やさつれん

池のかとりの梅を暗うつる

かゝ此ゆる池のおもとゝよりうゝ梅ちりかゝるゝ此さうせ

紅梅

和の梅のさうわ〳〵うて此ようつるいろ此みちひちうう

梅よりくゝられ此ゆるゝ

和此うゝのさゝふきさてそゆるさらすやちるゝふるうすく

梅ゝをハちゝ山ともゝすゝ梅のちゝ此ゆさゝ

梅花底衣

言ハゝみてもちゝを梅花をゝみそゆうきぬをたゝひうゝむ

落梅風

梅花うゝゝ吹よゝ風ハふゝひたゝうも此そハさゝ

落梅似雪

山さとハまちたゝ此ゝ此ゝ山ゝれハちゝる梅を雪とうみ原

いさゝ万うて

梅ゝうゝゝまゝ見ハゝ雪ゝ山ゝうゝ梅の雪ゝそ山

[illegible]

やとりとる中人へのてんぢの春やこれん

[illegible]

かえりるあたかそれ侍みとりこのさみそまつかつそちん

柳

さらさらもまさく立るれねる柳の陰ひむみち所ちてきふ

小松ちにもちひあり

立ゆりねのひせ人とりよあむ小松ちにあさけきひ

春のころ光山ちる

[illegible]

春月

[illegible]みふたちろ月よそそつきうちくちとなよ品ひちむ

[illegible]よの月はちれとろ[illegible]ちよ品ひちむ

まろひねようちるうれちあり[illegible]ちれちう柳は月かりね

中くよちくみえねるちれよの月ちるみのちるやけちん

おちくくよちそかもちまちれちう雲ちそちるちれよの月

清月上梅花

照月れうえかちれて梅のちるいろいひちうよ来ちりるふ

梅は月れちく

ふちひくもよちもみとみゆるちのよを春も月れちれるふ

[illegible]雨

[illegible]

山ふかき雨

[illegible]

春雨

[illegible]

野雨

[illegible]

[illegible]

帰雁

[illegible]

[illegible]

旅宿帰雁

[illegible]

岡雅子

[illegible]

[illegible]

野梅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

待花

[illegible]

御待花

[illegible]

山花未開

[illegible]

震中花

[illegible]

夕菊

[illegible]

夜花

[illegible]くハ袖よりもれて[illegible]明れ月のうるよもちるとてうる[illegible]

月前花

てる月ゆのうるうるハ[illegible]ハ[illegible]をもふ[illegible]

[illegible]のみそ[illegible]嵐の山[illegible]月[illegible]ひり[illegible]

河上花

[illegible]川みなせ[illegible]れ[illegible]

大井川[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

松雪花

[illegible]入[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題[illegible]

法のたふひもとくをみて学ばるる山ぶしゆめる

高寺花

ひさくもの〳〵をみまをりけりのわれみてくしのをるをみるこひよる

花錦

はるて景色東へ山辺へもをるれあやをる毋れをる猿也ゆり

さるのはるれ毒をるれいてよある

はるやの外のトみちををてをれたの毒をるる

やよひをうりあひををりる人れ三年

ちへゆくよをそはをを〳〵市る

其の日れをるの山はいる人いのうれかをる毒をるる

桜れりをを大をを人ををり

桜毒木ををよををを毒をれへ毒ををつくをおりひりるる

江戸よをるるをを山みかををを

其の日のををををよく俵りるを山れ毒へ桜ををり

其みを河はををつを山生毒やあかをを毒のををよをる

れをを河はれををのををみをれをををれわをるをりり

毒の生を生ををりる景色川ををかをやるをのはは

ある中へ猿鈴をを

をををまををれを毒をみををれわを葉かれを袖ををるみゆ

花山れををよをる時よある

桜よりかろきもゝむら尾山まてよ春はつきなゝ
山さくら雪とゝるふるひらをとなさはゝ人のゝ春

大井川よて

たかゝ川いくかるゝゝ春せきよもゝるゝ春はとゝかしさ
枝ふゝ春ゝる春とおもひはゝ波のうゝるなゝ

落花

さくらはゝ春のゝかゝゝ春はゝ山ゝ桜ゝ
山ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
雪とゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花半落

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

水上落花

大井川ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

落葉客梯

世中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まさ真

木のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春江花月夜

みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いくたせめる辰

うちむれて花もおそろしきよりたのしみにもむ月のくさ

三月三日

吉かりしいさゝかみやこゝろむかれも春ひまめくるさゝつさ

松の日花見ともて

雛と見るより目かられてなれなかひたるまなまりまるま

西中苗代

とや方とみなしろ田まかるるのうそいちそくもみまるるくさ

蛙

大原やせり井のまにまにかなくまわきのなもふたつるか

菫

はかとてや行くさきくれ誰のうへれさきみれて紫なり

菫染袖

露なからつみわかれまよはれて袖さへ春にかゝるかな

菜の花を

乾てよ見るねもゆゝしあらにすとまて咲れくかきりなれ

ほくし

はくしかくもくいつるさきやまなさうなれみとりの色

中きみとう

山さくらみちとさきそるの花ハいつより春の花咲るらむ

やまひさしうつるこゑやあちこち畠侍よかへりて
かも川のあなたこなたとかすみこめるさつる山そこのそこ

簾外燕

山ぶきのれいろうにてるる山街のそとも桜とよ佐ち
さくら盛よりのわそふうる
よそふて人にとられぬ春雨はきをとるをしをんみをうり
いろうれあくをよして
春はいて絲よりこうるれ見をいるとも袖うきを
春木

山うれ川いうくかのうちをかきれそうを一枝をふきよりり
さ夜てうるひるねの宮れ柳えを月ようつるとおもひるるふ

春野

中ぶきれ野の花色ハをむられとやはをくしをそをれ

春河

松の内川ゆくをゆくを風ようち波の浪れ芝や咲ろむ

大井河春景

りあもはをそをれんあるハ雲かれは波のをふせそ
何はをるをそをろ

大井川をふるあゆを咲春よあくれりとみゆる鳥

燕子花

かきつばたさきぬるさかりの池のみぎわうつろひぬる

山吹

なりぬれやゝ山吹の花をてにみやびてひゝきかさしまそこん

ちれば日のうつるまゝに山吹はやゝもひとへもうつろひぬる

杜山吹

さくるとてやゝ山ぶきれ花のうへはうつろ袖をさへかさねる

ゑ

遠山吹

みるまゝの新れひとへをきてうつるまゝやゝ山吹の花

蘭

ちるまゝの花咲うれん山ぶきをひくまゝにたゝぶこゝろ

松上蘭

我宿れまつにうへたちふみわけてそみるへうつる

水辺蘭

池水にねれうつれるきくひとしほ作り花はのこれ

梨花

はるかゝりあけくれひとへ梨の花ゝるつまゝ花

牡丹

そうの草作みをもつてとはさろひさしきまゝそをそれ

みせやふれしきまゝ花のかたをうつりて後花忘れ

すゝ山ぶきをるまゝ中

[illegible]

[illegible]

限われにまるもとまらねたゞ[illegible]ゆく[illegible]みてたる柳うれ

江上暮春

[illegible]ふたえたゞめわたるよりなる波のいさよふとよれたる

旅宿暮春

[illegible]や一夜のゆめとみるよりひろたゞ[illegible]ふまるやわら[illegible]

[illegible]のたる

[illegible]れたゞ[illegible]ゆく[illegible]のたちそせぬ

[illegible]

夏歌

首夏

うちそそみ[illegible]ひしたゞ[illegible]ゆすぐ[illegible]

夏衣たゞ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

夏たゞ[illegible]のうら[illegible]

風ゆる[illegible]ほ[illegible]れ[illegible]みしたゞ[illegible]ゆ[illegible]

[illegible]たゞ[illegible]ふ[illegible]たゞ[illegible]

初着単衣

[illegible]たゞ[illegible]

更衣

[illegible]

行くわくみわひろみねとられいてゝあそぶつゝき夜衣うれ

苔はなたちのゝれさぬゝうゝておむらをゆうれたもれるきふ

玄像のそてれふのひゝうれわぬきゝもいまるかぬけさうふ

旅中文夜

うきとゝいとまのイ

わきもちをうわひゝみゝ下旅衣をるそうもか一方うきうれ

秋夜

うゝうゝそゝくゝ覚ゆうてうれい方さうあり山松それ

ふえゝくゝふ夏とかそも咲まうを根うみれ玄のをてをき

新樹風

ぬちるゝうれりの松風もつそうゝかれとありうり

うつきれをつうわまりをゝ川りまりて

いつの方ふ玄のをゝ川そをを出みて流きみとうれのそうるん

卯花

ほゝきをおのうをつをらをゝぬも時をうれ恋いまをわあり

隣卯花

新そまるをこうゝうれ

菱

よゝ立れゝたをゝ二をふのあゝひまを恋ふ人れうをゝあるん

郭公

文はなか義はさかりの頃とぞ聞くに一ぞ見ちらされて
ぞ
時雨まを こずみの花ぞ
待郭ぞ
世中は人ぞ〳〵わが花は
見やとの色いまを花よりぞ
散ぞ方つよゆ人への一ぞ
連歌俳諧
ほと〳〵きて文よりりよひくみ風のうまおそに
発句侍郭ぞ
時雨は過ぎぬ月をみるとぞ
一ぞも いまを花の花ぞ
女ぞ花ぞ
時雨ふるぞ
郭ぞ一ぞ
わっぱぞ一ぞ花ぞ
郭ぞ未遍
頃とぞ
時雨何方
子紀ひえの山へよぞ花ぞ

月前郭公

時鳥かさゝ〻月はなをみてきゝ人かふきよせのひとこゑ

月は秋なをゝ人うゝ

くもりなとはなはさやまつはきこゆん月なりたるをのこゑ

郭公遍

かやとこゝにをしきなきしはのやをまふうねをかなはさやあん

又月夜はなつよまちなる時をふりいてゝふるねをきゝあきらん

杜鵑数声

さみたれはかさゝりをとをまきくれいかるをうあゝほゝゝきゝ

ゆふ殺とゝ人うゝ

やをゝなりひゝゝゝをゝなりはちくみて伊勢をもむかはをゝを

郭公

ぬえのなき花不ゆきむ〻やをゝ一こゑをゝるほゝよをゝうれ

閑郭公

おなはれ笑はをきむ〻をきをゝみてよかはをのゝ世をこゝ邪

聞郭公

たのゝ時今をゝはれ笑の秋をゝをゝれをゝて秋をゝ世をゝ

友々郭公

古々の木立やゝをゝをゝとゝ人なゝ

函中郭公

面さ行へ四つさうよりいてこと文ともそく於てこのれ
さうて生よ於てまつ人さ一まつを面ちりうすはきうふ、

早苗

志つ毛れとハ山おろ〳〵時よりも外四れさふ〳〵ちるひくみゆ

夕早苗

たゑ〳〵山々日かゝれわ志つ毛れとそこのさふ〳〵とつハてねまよ

文月五日

芝玉れかゝるとゝれハ時毛ハつとまちさつきをうろ

沼菖蒲

佐毛ハ山こゝさゝみえわさゝられよれあやさハひゝ人もよ

菖蒲墓

揚ゝ衣の目やゆつるゝむ言くもふれ〳〵ちやとそよふ

文月雨

世中ふ毛れハかくこゝさゝられ代きの礼てやとさはゝ

古宅文月雨

さゝれ代於やかゝさゝ苔生ふねされ細ゝ〳〵物と

文月雨欲晴

一つ日もそうてゝ〳〵むゝ文てゝ毛れきよよみゆるこゝねゝれ山

蓑

郭公まこゝちつこゝもれ於ゝ代ハてゝ毛ゝ代れ大麦

水鶏

五月雨は降りそそぎうづねとなきおとなう鶏なり
ゆふさくれはひりんはのようにひるなく

海水鶏

月さゆる山さかふかくひるおとなくたちそなれ

白井水鶏

雨ふれはものおもひさまひきなみよる鶏かなよる波ぞ

螢

さつきやみ山池をりかるうづねかとやみまよふん
うちいづる火とるなる石山はやのみまよふかるうれ

いなうねやさしうるむる波はうりてとかるうれ

夏迄螢

降るはかよまもて山陰のはるうまよるとはうる、

螢迄水上

岸はたるまる淵ゆうれはおるちねてらかるれ

螢紅葉

濁はみけうるかをとてかるは波のようやたるむ

螢迄花

かみはやいかはぬまよひねて宮とそてはりのと社れ

暗螢自然飛

いかるがのこゝろをもとめたゝ[illegible]

鵲河

夜ぶかみきゝのとまろ川なるこゑくさかうもれ

ふたかみのれそこなてらて無尖ふれぬ山のうをもり

祇園祭

月鉾のそらよりこゑなるなりそこの参法山ほとゝぎす

夏風

夜山れるこのいとろ夕風の秋まてそひるこゝろ

夏雲

ふつ山れる紫ろうへよりきれもろきも色まろはさりろ

夏河

ふつみかたのゆきひまろこゑ波まちたこの色のかやそそこ川

夏舟

夜れよの風みれりてもりあハ月れひろ法さすまさりる

夏鳥

ふてやとろ法れみの毛もとろ五下かさこの山れ文ろ鳥ろ

夏山れいこゑ法ろ流とやひもとこゑねふハそこれ

夏歌

小山京夜ふ文ふこゑ詞の秋ろひもみをそありにるる

笠件

あれたる庭の夏草は夏草のよわ[illegible]つかせてりんどうま

夏草露

咲くとて散るあはれやちちろんはゆとうむしとりれ下草

野ゝ露

ちりぬるわてゝ人はおく露なれ夏草の山ゝ思ひ出ふる夏草は

なをもしき

あるは月はかたふるてこゝ[illegible]ふるの色さへかはる

閑庭樹子

人をさそふ[illegible]ひるてこいはれるこゝちはれ

ひるゝはれる

れかはるるもそれなるねみちはへよ咲とやあをを紅ゝ[illegible]

新竹

さとゝ[illegible]はれるゝ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

生い[illegible]次

古ちはかきねいとゝ[illegible]れとゝ[illegible]はれの[illegible]

面井蓮

[illegible]はれ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

夏久風

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

夏萩

夜荷は菱のさむしろかなるこゝさと書はたゞ詩となるさむ

菱月明

庭たゝく月はてるよもこゝろれてたゝくもつきの夜なよりり

杜菱月

きくむしよりあはれとたゝくもつきの月

浦月忘菱

蓮よりの月をみれなのうにこゝに夜をこいさやひるさん

星牧生火

ひさとのかやりあるゝ夕つくりはさねるさるうるるる

夕立

徒はあてゝ行かてはあはゆゝさられるよかさもひまりりり

ふちるよもみあるる山の流つるまるとゝはるゆゝさられる

行路夕立

ぬまゝとてあるさる山をゝ井はは夕ゝる風さりゝ也

蟬

山陰ゆく弱はあるるたとるまて鳴さゝ蟬の枝よひる

樹上蟬

山杜のゝゝ夜くまるくせゝはゝ夜ひるよも咲わゝれ

生ハしゝゝ

琴ゝの鳴くゝのゝちみの言るれはゝさまて夜ゝとゝるゝゝ

晩夏

はるかなれる松のこずえせのちろく秋とみ声ふる音

水宝

石そゆくへとまつむとひるるちかぢかろねとそねよそふ

泉

うてゝ火れいつゝいさゝれいけくよりわそろあれ涼音

松下流水

松ゆゑあるゝ山陰ゝ夏そくこさとろせられ

避暑

みゝ月れゝのゝれ家とゝてくむはるひつゝれまゝ井の名

納涼

うち川ゝるむゝゝれちゝたゝあゝはるゝゝ山井れゝ

杜納涼

いゝとゝくゝりてゝゝむゝ山ゝゝふゆゝれゝのゝれを涼

芭蕉林納涼

まゝちゝぬ桐の葉ひろゝみゝのゝれゝゝかゝれゝゝゝゝ芭蕉つ

わゝ蛙ゝゝ松れゝゝゝれ陰れいゝてゝゝこかぬゝゝゝゝ

水風涼

ゝゝゝれかもの川風ゝゝゝゝゝれゝゝゝ涼ゝゝゝ音

水楼風涼

風吹ハ風吹ものくるしまるる秋袖こそしられ

松風恋

松ゆゑ川もゝしもおろす山松のわゝしの陰ハ夏ゆゑ

六月立秋

みな月ハてる日ハ秋ハ風のかとよもきてれこそ

秋歌

秋ゝ日よりある

ゆふとゝく風のこゝろ也ハ秋ハ

初秋歌

今よりハ秋のはつかゝ秋とも歌の風そ先ゝみ山

初秋風

ゆふ〳〵ハ雁のこゑ〳〵わう袖よりハ秋のこゝ也

杜初秋

山ゝゆふ秋おとゝのゝ里に引ゝ秋ハ秋ハ風

早涼至

[illegible]

待七夕

秋くれはこれかをみくさむしひあへぬせゝのそよわるゝ

七夕

[illegible]

地よりこゑともあらん星合のさゝ葉をそよふみをしる事

まろねしてあつまるふとゝ[illegible]ゆしとやよいとゝむ

かゝるれけるこのもやくつゝむ明ねとのゝ明わるゝ

久しくれてこの川をよあつまりてこゝつまもろよ明よりう

七夕灯

[illegible]

七夕舟

雲はなは立そまるゝ[illegible]川はまむこゝあさるゝ[illegible]

七夕寄

[illegible]

河辺七夕

星合の新しう行まゝかはかりもとはかりのゝちをそれ

河ゝをみられてゝある[illegible]合のゝよゝすひはんゝそ[illegible]

萩

[illegible]

面白萩

ちりすたれたる花かなどよみうれたるひーさかとかかるうら
ぶるさまを及れさひーさきつれと時ふるみさをとられたる人風

山ふ萩

世中はかりそうれたりうらふれ野の萩のうらふれ

萩交萩

秋のみるよりやうすきとなくさわうれたるきのうらせ

人はとる袖の露

さひーちと空よりふるしんりきるね萩のうらの色

ふるさと萩の色よりてる

隣萩

うらうらそ知ねとふれ位根ぐらけさみそそり枕萩のそふ

蘇花蔵水

一むすはたるのさうふう川かれてかきねは井戸ぐられさうら

行路萩露

さ袖の露を袖をはらーるなのさるうち井辺の萩の上は露

秋野

山ふれいたるこの小野の萩のうへよふ一よねて人みかるこ人みす

落風

志のゝをよふむかふ風のふく時そ志るしらねとも人ハおもひしらさき

風荻露

荻のはをかきなきをきよいて今こそ秋の風ハ吹なれ

紅葉

本のゝと明をきれるたなそらの色をさかれ紅葉の色

蘭

藤袴うすむらさきのちきりてみる人かわれのへかれ

谷をさ隔よ一むられのこかるゝちるまと

をわてかへつまて

いちりのふ夜ひみせむとらあへ左そくとよそそる宿の一方外

女郎花

ふるさて人よおもひとぬみえしかるゝはなのまよふれとも

草花

徳のなくゆかひの花の秋萩はうつる紫まてこそ色つきなれ

みちのへよもちくさる霧草の色のいろよしむくろゝふ

野草色

こゝ人をかへるそのかへさきの池辺の秋をも生なりける

雨中草色

露としもにむひよみなみ婦ちりの秋をきたれ

月照草花

咲ぬいろ〳〵そよつゆもふるかりそめの月は新うふ

宗

わさとれむらうたはきりぎすねゆる秋はさりきり
そこもりの枯うらむ木をみれかとひもとまてそ鳴

尋宗孝

むさゝ野とおいてれふるゆゝおとをは鈴虫れ

周宗

相のゝのかつらもはさひさとはふくるはりそふ
思ふとち笑はまとをきりあひらきひとちひるふ

夕宗

ゆゝへくまつはくれ此をちやあこのむしを鳴るむし
わさをうきゆゝへと思ふさらに笑る

扶宗

長夜をあるそひねてあるむしのうれまくあはれ

月前宗

月のてふ萩うゝへよのそみをそねるまれをさやうう

宗孝飛一

長夜れは玄のよまはみをもとるいろ〳〵よふさむしのうふ

秋風

なをよとふくあの光きは思ふとりまそ所秋の色れ

秋田

いふつまれかよいつる林くさあうまのかたつきに川うそ山田も
うしさみれつもせこの糸とみりこせれ行くてきこまもをつきなり

田稲妻

こやまこれひこくよもこれて立鹿もおとろくもわてこいふ妻

鹿

月ふこはまこれすこものと山れをよいてこやきこれひとり鳴こみ
むふりこよ変りゆへれ林萩はおのをこのねすやふくん

深山鹿

あしひきの山後は鳴こみそこきこれひこそ鳴こ

谷鹿

さびしこは月れ山むこまこ光ふきこみゆ物つふとここ山

遠望鹿

ここれいきこはこれひこそねとこうこまここ山きこれ

寝覚鹿

ふくここを暁ここ望ゆるこ山きこねこ光こ

七月五日

うつせみれこふこここはこ山ここ

秋夕

玉川みこきこみここる秋こほのかこみこ山き秋れゆこれ

秋夕清人

秋風はさらさら袖の里雨はこてろをもるる雫なりけり

山家秋夕

秋の色をそれとつるもとゝさとは里人ばかりなりけり

きみまれて色ふかきの山里の秋はいかなる人のこゝろ

野秋夕

ゆふみえて月ゆ出風そはちりる色をもとゝる理孫

海道秋夕

万ちにちる野辺のうさき秋夕をまよみちる波はるの色さ

あるく人はたとゝりに思ふとい人まとかりくるる

今そ名秋の里の思ふこゝろはたゝもるまちり

秋夕といふことを江戸にまるとき

きかるゝ今ゆ出をもこゝろあるとき

世中をうみとゝあるしとゝ人をこゝふき秋は里ゆ

里面くわうをうをうをうをうをうをうをうを秋

さはは山みやこよりをぬいうてこゝりわ林の夕れ

きをれは一言衣をかりうをうをうを秋の里くを

ゆうをよの人の山をみをかをうをうをうをうをの秋人言

悲しき

あひをれ山の松葉をるといふ人不をを葉のをりをそう

所々秋

立つ[illegible]はゆきとそ[illegible]ふる[illegible]

秋のそら

[illegible]

いなむらくうはなり

[illegible]

田家秋夜

山伏のかとふけ[illegible]

秋鳥

[illegible]

月

おかへ[illegible]

[illegible]

十五夜月

[illegible]

十五夜

[illegible]

十六夜月

[illegible]

立待月

今宵とて出る月を見れば人のまちとるてむかふこころよ

竹林月

ねをたれやうすきまちれば月かれいるうすきんちをもれ

かくとふみてまちむと待つる月かさしてかさかさやうち

月未出

中やうの出よりは山ゆみをもちよいつを月かかれるうすき

衝頭月

ものをうつ中くらみをる月新のかくうてかをるよ松を山をよう

晴夜月

雲間月

隠れをれるふひらかるる澄みまさいを出とろよ月やうをう

山月明

さやうるるとのへは月よ山をるのねるよわられて寒そをるん

松月

よをとへて松のかをるこうをいるみ山松のよ月

きはれる月ちいかを明かつるをきをうあ一彩れ松を

月下松

る月ハ松のうへをまうめるむをそをうをそ新かをれ

松間月

[illegible]

月前松風

月のえだのすきまもれて岩のみちをくまなくてらすよもれ

竹月

長生殿のうへにひろうてる月よるみなれたかりのさうみ

荒屋月

人もなきあらやのうへの月のそとにゆきのふるこうれ

あさ月

[illegible]

[illegible]

明月と

行月

月はいつもかはらぬあるようにそれ

影しろし

木の葉ふるあきとなりてひてる月はきのうへをあらはしよるる

いろいろのみちをえねまてこそ三日月のうへ

野月

月はやはいつもはひすりの末はてはきの迄さへかりのきの

月上月

[illegible]

河月

きりかたのあけしらみそらにうちしをりたる月のすがた
てる月はやるせなのみうるかなひは陸奥ろとなりわ
いまこのさとをてて
契をてちぎりいふかはみこ川あそんとおもへば月
かもかそりこそ
わきうるほのさみよりてりみまくうちせ月はきこ玉
きつき十五日砂川の月をゆきてよめる
ゆくえはおかよみちちかをとあふひの月とやきをうろ
かきりあるさとをとこよりはきふ川はそこまてきる林蔵の月

ふうえはかるはいくかかふうろゆくみちのへみ秋のよは月
菖はきのうろうきをひふうろ風をよめる月のそうふ
石原月
かうれとみるその山うみすれへ月はまきをうろ
海辺月
ちみのえはは松をきれね月新よまつあるる仲つ玉陸
浦月
大淀はうろの松ねあうきれてよるきへ月をみをやるる風
淀月紙雪
ちしは月のひちうへ秋のうちちあうきをとのをうるる

湖上月

[illegible]

澄月

[illegible]

山嶺月

[illegible]

月家を信

いづくまでかくれぬ月は新あるじ心ちひやしんねぶそうち

影さゝぬ

今出る月やみやとの出をいつ[illegible]

月屋一窓虚

大出れば月をさゝれぬ窓のうちよりそくひみちつるうち

對月待友

ふるくよりいとも人はたちそひあひぬ月をひとりみすーや

月多秋友

若ちゝ別ねる月はそのあるかいてそいとも[illegible]ーのうち方る

社頃曉月

秋八はようにのあの玉垣木のくと木宮よりとむる羽の月

[illegible]

それはあをのうき波やれば月はうもれさうなるすゝ

初冬連雲

そつ雪はたゝきよあひくもやはひるるみのんちされ

山家初雪

山さとはけさはうらそうつせみはなきよはいみうらと鳴こ

夕雪

中をよからそつ雪はた玉川はたゝさるよみせよ山のそれ月

雲留雪

むらゝいろをはもまふあられてみゆるゝ紅を雪のりとん

寄中雪

あをの山ふるのうさくさうにうれるうれ

旅夕雪

故ふるはつるあをやうねもあさとすうう林のゆうれ

一行斜雪

あさはるる雪の一ゆうゝ見はつこうろくまひさるふ

雪紫文字

りの雪はりの一ゆうかうけちてゆみとれるくさうてる

湖上雪

かうさはれ松のひとゝもうくまて雪あかつるきはれ大ゆう

田家雪

をやまとふをふひく雲れかのくとたのてるまてする色分

搗衣

山ひめのさくるまをかく衣うちかをもてをうつとそふく

隣搗衣

かへりよるあさそひく菅ねよぬよも往れぬかのを

月おろす衣うつこと

てる月をうとかにう衣うつるこ色をよ出みつ

鶉

河雾よきせのをのうちみそよも夜八明それや鶉ろ

霧中鶉

うつ〻鳴くこ〻ふりせいかるをの雾れ色をいそとなし

野鶉

ゆふかれうつれあるる野辺をまこるをのくろふ

うつふくいをれをのくまを花系ゆをそかるをうつる鶉

河をいををうれうのあるこ

鶉ふくをふうをの林風よみをかされをうかちのろ

四つよ時のあるところ

苅あをこ山田のくれゆまくれをひーられねをうそ

江をよをる林あるなのを

ちをふちの一つをあをれて和風つるをるのをと

菊

さつきまつはなたちばなの咲きにけるをみてよめる

ほとゝぎす花たちばなの香かなつかしみ

ほとゝぎす鳴くや五月のあやめ草

長月の九日のきくの花をよめる

強日見菊

ゆふ月夜さやかにてらすきくの花

面白菊

千世をかけ面白くさくきくの花

色菊

月お菊

ふる雨にぬれぬる明のうつろひぬ君よりしぬるきくの色

月照菊

月照菊花

折菊

咲しちらすまてをる菊花色をかさしもとゝ

散菊花

千世まてとかてこそをやせる菊ちひろの人にをれて

宣陽

いさ人はしらのうりてうることとそをやくまむ菊花

九月九日きくの哥をよめる

あしひきの山路の菊もかはらなむ老せぬ露のしたよりそはなる

十日のきくを

菊の花千代のよはひをせしそみかへる露はやそとせとちとせとちきりし

悲しき秋

秋ふかきやまのみねと山をみわたせはまつの葉にこそ色もつきけれ

きのふまてあをかりしのさとやふかくなりゆかんみのなかにいろつきにけり

松のはとみそよそ人のいひしかともみちもはやはてぬるものを

奥山の紅葉ふかゝりとしらねはいさきかみちはさかりなり

尋紅葉

万く深ぬ山めくりしてくさかりしにしきそいろまてよめる

山紅葉

そめいろの山のもみちのにしきをそおつるともはなにふりつゝ

うつしくもいつなへのよのふるとして山のもみちによこたはりける

雨後紅葉

木葉ふかみそめてそめれはむら時雨くるそやそことしられける

紅葉如錦

山さくはにしきのよもにかゝるなるいくしもしくれわけてすかむ

實よりもみちなき

せきのとのいろのはるゝに深く染てあかは雨の雲はへてるかな

東福寺のもみぢを見る日人々さそひあると通天橋より
みおろしてまつそのあるさまを見るにかたわてたのく
さればこゝもよきとて夕見る
まひよりる人をおきよまさそこそそあえてくる山の時雨に
あれ橋をてらかよふといふをとはまひてのみちのくにはかり
すのちりといふをひとりかるへうかもみちをえよさらひ声あるに
もみちへもてぬきにかとかくかきちかいさすくるさ文字にかりかり
山の時雨はよろふかくそからちれいろよ中へ見てやるくれかり
香をぬるより中ひのさしてさりへきて一枝をとあるかへとみおや
おとおりてさくやむかしの屏風ちらしかなきよとくれなゐに

ある人さくらもみぢの枝をとらせておくりけるに
さくらもみちの枝をみつるにおかしきそのいはなかり
江戸よりおもひける時さふしやといふ所まて
おくりぬる秋まやひられ見む色おほう袖そみえはそてる

梅木翁

いかまほし霜枯れやかりにふと思て秋へとまねむさくみ栞

閑居芦菴秋

かれかれしてもなつむ夕晴るおとつれてきくる秋かな

芦菴梅翁へ

小菊もうすむらさきにうつろへはさおとくるまきのさくら

芒秋時雨

長月は有明は月のはつかなる朱ぬる雲は時雨降り

初冬時雨

山さとは冬のはつかなれかりかさねて冬をかさねる冬

時雨

風はやみ夕さる雲は降そへて時雨ふるなる時雨ふるなり

ゆくみちは時雨ふるなる時雨ふるなり

ぬれつゝそ来ぬ人を松の木のそはぬれつゝ来ぬ人を待

夜時雨

めさめて聞くそらに時雨ふるとうとゝ何よりは見さゝ心

寝覚時雨

さくらぬるもよんかそきとみのよれねさあきろ〻傍時ろふ

山居時歌

おちこちむ山のもみちと見るさて時ろよのみやあひよるる

杜時歌

山体のこれこのりゆかちのそを法しと云時ろる

田家時歌

時めきしかこれこれつこれかたちそ今ろちねと云時ろ

海辺時歌

沖つ波うちたるこむいつのほやあきろ山のをこれり

残菊

ゆ。さこのよれるこれこよおりんけまのきこうこれ

霜をへて千こせまてこやみれ神さひよる出菓

禁中残菊

おく霜はたよ宿をけ人ふれ色をようろ人きこうこれ

初紅葉

立田姫かさしまてこる一枝よみ下る秋のたこいきこふ

落葉

時くれりそれ時ろけきこりとて出ろさ山ちる木葉

山さとのおちこうこうへそきこめ山きこかちまおこうこれ

路落葉

かみちらせる菊しくをのみ
河辺落葉
大井川さむき嵐のやう風よ梅のかみちらす日そなき
馬上落葉
秋のおもき一葉こそ菊よりれちるる弱の葉みのうへ
庭落葉
ちらく菊をひろうそのうへをせいをかきもうつれはそう
落葉深雨
木葉とも秋とかつ秋をいろ引そいるかもの枯ちる拾ちう
荒れ落葉
ちるものあ拾ひきらうつれて三日又方ちよ菊このかぶ
名月十日あまり東福寺ぬみちみよ方ろ
月そう
秋の雲とゆうるかみちてかちるれちるるんちそ出れ
夕風
おかつふこのまよみゆる夕月もちるそちる木枯のうを
田野庵
秋寺月ちのおくそを時々ふかりと咲そかちるるる
霜
ぬそをれやそのそよりおくそのいろいるれいそやそるん

閑庭霜

山ざくらのかをねはしをしの松霜おいとそねるめるふるふ

橋霜

ゆえくよさむさをタ日ふる雪をけすせるに長そ

ほるあしら

船霜のあり川をしをを千をあ　まさをそ　佐をふさふ

霜菊欲枯

おく霜よりつれいて　虫のひいちるるふき　をの落ちく

野霜竹

かつ　に　花　のまれをみ　ゆ　そ　さ　る　ら　れ　の　へ　ん　れ

冬松

木枯よしをしをみちをく　岌ハてていとに　ひるる松のををふ

冬岌秀孤松

あやかをうれをのををの岌　をひうをむを　霜いろふ

峯椎栄

山人をなよいねをのをひ　栄ハをれるよを　ヲ　を　を　ろ　る

氷

冰よりも時白ハ山ろねを　みふ法よ　ふ　を　ふ　ゆ　の　を　ち　ち　る

うをふうう　ゆ　を　ち　ち　ふ　ふ　夕　月　れ　を　を　り　ち　ち　ふ　池　の　ち　を　ひ

氷姫結

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

井水

[illegible]

谷水

[illegible]

水閑流水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬月

[illegible]

寒月

[illegible]

杜冬月

[illegible]

河冬月

[illegible]

みやの友狐のうくと
さしつる月よりうけたる夏よりあらむよひたる夏よりさん

浦千鳥

濱千鳥ふかくとめぬつるまたいまよひねてうつる

雪千鳥

常よせぬ千鳥たてるそたにゆるとふかうらひはん

月千鳥

あひなひてすとをとかをあう夏千鳥かさ見の月

水鳥

あたりくよふかくとめぬりのあかとやしみゆる時たちよふ鳥

池水鳥

ひるのうきあるをつるそひるゆくよいろさその池みなる

泡代

あしろひと鳥おきかいる夏たちよ生まいる雪ひとよさうる

ニをねりかをせをむみあるりちのさよひ水鳥ん

霰

をひよう妹かうれたより毛をちうさ初夏ふ

夜霰

ひとたみあうるあうたたひねとたとうする降夏ん

閑夜霰

かくれゝの苔れうへはいつゝたつるもちるもあれこの風

海上雲

陸よりする後山松のこゝとまてみるゝ玉へなれなるきち

ゝ行らのかゝれもとちるれ陸のうへみる雲れ

冬猿

ゆくゝむ木れみゆるきを寒ひねみ思やるゝ

雪の日山里へ人こまうてきて雪ゝむり

都人ゆきれ思ゝきを行まて法ゝひきまやるゝれ

霜月十日れあゝ雪ゝつゝふりれへ

陸雪ハ月れゝやゝあゝ鈍法めまるゝ玉まやまゝん

初雪れふりるゝと

六れ雪まてまゝ初雪とゝるゝゝ法ゝゝれ気ゝゝゝ

いゝゝけゝ雪ゝハあゝゝも初雪れゝゝれ限ゝれゝ

雪よいて

東ゝゝゝゝ雪ハ雪よ法ていゝゝゝ雪ハあゝゝれ

初雪

ふゝれ雪ゝゝ雪よゝゝゝゝゝゝれゝ法ゝゝれる雪れ

夜雪

只外れゝゝゝれるゝて雪よやゝゝいゝゝゝ人よゝゝ

歳初雪

あれの山ぢはあらはれて月もねのそらひはみゆるけしきなり

樹間のかすみ

降雪は星来れるとかやてとうねつのいちろさるる

山家雪

みやこ人雪をよそとみるとは柴の戸ぞうらやましき

数すくもしれをしくけさはこむ柴の戸はかはるものなり

山さとのかきねをうめる雪ぞうつ

禁庭雪

久方の雲井をよる降雪は月の桂をうつしなるらむ

行雪

降雪ふるひくれ井のあるかぬ人やとまれ柴

思ひ井ぢをとはぬと問ふる限まで雪ぞ降りつむ

雪中松

ほそ道のあくさの山ぞあらそひて松をとめる雪ぞ

陸雪為長松

松のえだをれをとはりと思ひ入てけて雪ぞ降るなりけり

河雪

けさこそはみぎはの水もつもりてゆく舟のかよひ

海雪

をちこちのよもの海ぞ雪ぞ

わたつみの雪ぞ

雪中梅

ゆうぜんの花とかうねとかひいもかのうみそて雪そ消ぬる

雪中日光花

雪中日光花やすれとふるまいかたてうるを

ほうるもとうとうねと思ふんあらうるふれゆきうれ

雪狩

かりうこうもの小松の陰あるうれてきうの景をいれる月の夕

夕雪狩

ひうて鳴いうれものとかいうてうて夕日のぬるうる狩人

雪中雪狩

狩をいきみふかのしうれ雪人のうてうこ雪ようたかうう

寒夜会

わうきかうう雪ふれ油かかるるむなかうきむきふかうう法色

かうねんと狩かうきかうきうて行れぬうこ愛うるかり

神楽

一うう法をかいかうれ星ううあふれうるとうかうみうう雪

猫恋閑夜

うつううひのあううかうれうふて苦かうもうきかうりまうり

早梅

いううやうふやううかり年言てう矣は雪まもかいうるふ

山家依興

山さとの月のかと尋てすりかうふるゆかりとてみすのきり

山家菜

さうしたにたのみなるる山さとのふみとりてをぬとうくそうあき

老後菜

今へ世ふあるまもなりぬ老ゆ身なりて年をはかりそふ

歳暮松

おかるくれはかりいはふる雪ひらのうちふとーふくまに

恋歌

恋ゆうるとよみうる事

いつとふる人もの実をちはやふて袖もさらぬまもなきかな

生ふるぬ実はたをとみーはよりおもひいる方法みすーのことと

けさをめまもはたはたー人はたをとあはれ中ーかてこそ袖はりぬれ

和のはたをとはしむ恋の山をつひよあらをれねさいろはをきり

思

いつをうの体をはひよをつむんくをてを今ふをる人のなをか

恋

おをかをのををよをむてをこひゆをいをてをふるをも名人をふを

初恋

いのるこひあるむなしかるへきねもせをみあらて後をこの事

小山田実舟おくるる人をそこをやりていのるはうれ

ひとかはいきのはるのはるくるくいみそたるる事

待恋

うちわひて後はねしこひあるてはまさる人をそ変をみえる

影をたに

あるをふちをひし秋のはうあるてみをはる人もあらとをそ

契久恋

[illegible]

隣年恋

さらの世のをやはをもむとはをれををの事せね

遠恋

をしはるみやはをもるこひのをこをえをあるそう

逢日稀恋

思ひ山日ををはくをいはをてまをふるをと思人をも

寝覚恋

ゆめをとをさをてはををををををおををはををはををはををむ

通書恋

ひとすちふをををいををれをはをををををををををれ

恋筆

恋されはふてにかゝる筆まてもよつくきにみなうつしなかな

別恋

忘しよとうらしともみえいはれねかりに逢てかへるてそ思けり

恋人

あしひきのやまゐのいねとおもひねし川辺にねる人をおもふこそ

顕恋

聞きはいねふみこのかくれさらことに人かくれみもかゝりけるかな

春寄恋

契川るかのきよりもさかりはかゆれなくうつるらんおもひます

秋思恋

奥山の深きおもひは林みよと忘つおもねともなきあしきをり

さぬしうちもよふきつゆかこひもむなしふかりけるわすてそうふ

寄月別恋

おもておかさとをるへきまちの月をまつくもるみちのきりそ郁

寄雲恋

あきとて月見へぬれはうちなひく雲もたてそよかゝりけるなれ

寄夏恋

ねるをまれゆめよりあひてしおもひそれみるとかへるわたつみひとつするます

寄聲恋

川ぶねとの寄りよりて糸をぬんとて人をひれるこう那

寄筆恋

いろいろよ和のとるかてのはてはもとはかくれかくれ思ふこころを

寄灯恋

きてみるまくらひねりのとまるとあくるとかたりとかたれるふ

寄車恋

ひろいろものひまれうしみ川よをろくむねのやまとそをきて

むかしをついちとそれみきをみるそてきいのとうち

いそふりさてよりる

初夏郭公

郭公なのりひはかくよもかさあるをしみゆるなりかり

更ひくふかるをみ信をちるよひたいさて可寄

逢しるをるをれをよ後のひてをかねをとてみをよをむ

ふたをれをる

あるるらん初学をえてふをるうをろをををゆるをるうを

わのふるさとをうらよ学をみるうち
松をねつるふよなれて学はおのるちろ孤性とふくう兼
石橋のうちよ安女のゆくうち
みや人は赤岩のうちをみるうちうちそれ多ぬけりの下風
西り上人法彩供り析花とふことをうる
ゆうちふくうちうてなよ悔しきいろく色木はさくうちうり
久しくうちういてうちうつうちめかりふくおれしまち
はうち色のうちうるふるうきうち人のふを
ううてよめる

年たちかうしとかうれるむかしとしともまうさを

志賀はいかうえ出るうち
まち雪いうねううてみうちせいむうふうるうち花ううちうなみ
嵐山はうかるるをうり
ふううて松の嵐かううねいうるうかしふうさくうれ
おかりうきうろはやうをの嵐山松をうりぬうをのれふうを
芦はみのうち
とふつ人うりうふうて水一万えれ玉江の秋をとふのもり
まち聖はむしうて人のかうをせうれへ
松をかうをひやうりうをかうを秋のかりとふうをみてやふうん
後光市より伊幸子をうるうち

あひさそふ山の風さそふ秋ゆへ
おもひ法華堂のそのちり
今はとて山もみちはかくしつゝみゆるは法の光なりけり
ひるまよりたゝめるるゝ
をやまもひらの雲まうつぬいふもちるゝ
江たよりたるる秋とみかゝる木無まよりて
村雨はたゝれてみゆるちるもみちやはつるすゝむ
菊のうゝ
なのはちまつ咲みちるれいろはれ花さそはるゝと思ひるれ
いろもしたゝるゝをうるをみわひるるゝ
菊よ蔵のそひるゝ
きりをゝしをゝ細かあわつむ又はよるのしきく紫
雪中嵐山のゝ
さゝをゝき嵐山の名はゝて雪よもうるるはいろれ
有仁嵐
ふてられはれはゝて雪とあゝはもはゝうゝ
山家水
ふ花のかよねのみゝは法れと山ゝれはふゝうをゝ
はゝはゝえねつゝ山ゝ法のゝ人はゝはゝのゆるゝ
山家雨

いろにより万つねまそへて山さとのかきねさびしくそなるらん

にほのかとりよみける

たかせそそふこねかねと思ひつむすま万世まつるなれんそ

流水

いはねより落くるぬきれしていとまあをつらこそむすびなれ

しつかと思ひ入りし奥山のみ法までひくぬきれおとろな

ひさしく江戸よみて都へつりぬるむとせしとき

かみのやとりかそへと思へさたちて

たみなかへよるく舟れちの声をねさめよあさいいつきく へる

すみなれしそこからかれ船をまちさりかねてみなのとそふれ

さいかやとりは今戸てふさとにてすみたみた川

のこきりふりききてあるゆるよめる

すみたれのみつむたみた川そとのたきにかよふる白なみ

二首 漁火

あさりするいをやちふれ波おきつたつかそむる照れいさりひ

雲

何ひきれ山より立つるをへてるもふくやまつむ

峯雲

かぬはに立かよひるしつそれいろは雪をもけふかかるらん

夕山

山深く里の新しめりかくれ家をそ寂しかりける

夕幽思

さみだれのつゆもまだしかりけるよりてのそのよ

庭苔

ものとてゝ宿人とはなき山里の苔ばかりこそ

閑居苔深

梯はよりそむ人とはなき庭をそれい苔のうつもれのてゝ

家花の枯れ木のうへもむすぼ苔のみとりぞ深くなりゆく

橋苔

あらしかけるはの花木をうしかりけるくりい

名所松

さみだれの雲はたゝもあるわ遠い本の花をそかけさりん

初松

ものとてゝ宿みさとをそうはかるゝ宿をあとよ松へこそつ

稍々等成行

いつ川はまふりさふ山ちくあるわ遠む井の岩よりくこそそれ

夜過関路

あさこ山雲のあるをこそるれいあつてさとよるれねをまる

関雨

立われひとりさをゆくあこさ山雲のゆつよ夏いうりさね

古寺雨

たちとまりてかさやうちする袖のうへよりもれる茂山みて

勢田夕照

東路はるの長雨あらそふ人はゆくひのすゑとくうちう

みかれ山のうへ

ゆくはるは雨井よみえたる白ぬれ君ト君繁れみかれ松原

影しるし

世中はうきものねよかなうむるまむこれなねのうつせ

いけしまれのう

雨はいつくはあまといつくの山みえうもれうちうせ

はれおりて雲きまりとうとうて

風はみたまきまよゆく雲ゆうとうの山をはるる

ひのかすかまてふるうあるもれるゆ中つうの陵

雲みたのう

はちうる世はうみのはれて松は受ゆる陵風ト

雲みれえの松かむりや白雲はるはうかうはれ

玉陣の山れのう

袁の山れ和のうう陵万代とかうそみうくおひしうやよ

大原女

さてよりもいさうわをも無つくひ出まちを今はちつきよりう
ゆ[illegible]強ゆりをのさねかつぬるよりを平往ちろみ
雪中大蓮女の立り
一えるひをもてやいてむ梅玄ぬ[illegible]ひ升り
苔の糸ゝをる女の大津立り
おちうりをや苦ち山[illegible]の古ゆゆう山ちのひとをゝ
千代曩桶蔵一生るゝ
人ちれをんのをまるやとしる万との月をけつるゝれ
静御家のかゝり
松のうへよりとんとれとゝ鶴うとうをゝをきねを四ゆん
英人琴をひむと生るゝ
いゝまれいまをひゝ玉琴ちゝをつよ月よんをひゝ
大伝よるれをゝんゝ
鶴まをゝをのいゝくゆ[illegible]ゝをてるゝ[illegible]みをゝ
林和靖ゆひをてをるゝ鶴ふとあゝ
毛ゆゝう
をのゝをよふくをゝる[illegible]ちをもつをゝせを
寒山拾得のゝ
おの[illegible]ゝとる[illegible]川をゝ[illegible]れゝ
漁父光よみれををひゝてかへるゝ

くらゆくとおそうてさをあるりよりいうまありそれ弘の宗旨

後成恩のかうとうる之事

たうを高野の中山寺つよりよりうちそのあやよりひあり

まや

あくをとかるる

かうりうをひきそれ一そうの面白きね嵯峨玉

猟人虎蛸はうあそるかく

笠れ荻えのうしようるこかふるそれそちこそ

樵夫れ谷川よりけりてこへるところ

山人れつるひ茅よりるれいけまきのみも思ひるれ

夷の狩れ網とるれ

敵をいふそうるまれ紀市よりやくきろあそころれ神

えひそうひをさそて生てるた

夕日さ夜色あしひ約えういさうりもむ西の去るり

大黒の蛭子とかちけくく

椹とうね鯛とりちひふれりあへ神代を年れ言いくせ

大黒俵れうへよ小椹もて宝うちいてんとをるかく

限あまいるうかうれうへいをれとも出りするうう神

大黒布代衣碁うけりく

はちれえもおくよくさむみれるかりや英重うつやを玉

いそのう面よえひをの約をるうく

後のうへはかの生るゝ法そうをおもてはいをまと称母すて

布袋和尚

名をおひて老をいむ袋をもその曉とも石のなやや

義家朝臣の名さ高き武士なりける

孫をもむる所りかへもねもそなりせさよかのちとあり所

後三年此家のうさ地よ伏兵あり出よ石のふか

うれをる

ちのうへ後玉まそ下ねの法をうれてのうは上石ら

強盗のおとれ憂こそ一を使ひ多ことる

良弁

出家のうち此生そ一宗をあつふ法をよふ玉憂ふれ

保昌朝臣烏帽子堅をゆくよ法ちうそ石さ

是れおひもさ重るうく

かちうそ国ふれもぬ一ねもねも立ちかくうるよふ

一宗相のさん

ふん所るのあり大出をむふのうたなひるふれ

大思此法ちうまへるかさ表月此石ふ是よと

ありよへ孫乗ふちうそ表ふうれへ

孫乗此ねての朝の雲へ松よて白重黄金ふいてくうを

和くさうり此是よようてのうる

いふせむその春ふかるやの春ふるよもあるれんと

画像れさん

後れ世をかなしみとかつみよと万葉かうこれちとき新と称歌もむ

玄女のわとうるく

紫式部日記にいろも玄きひころう

鉢をて手

口あらハくもけやまを世木杜の六く歌もひろ考そつ

宝舟れ乗り

第代を法るるろうの春ふれい芭蕉や高りあるもむ

いく歌れきひ法くり

まく歌ふ玄もきふ

きこひせうれ僕

懐四山所のきやこれ

風鈴流るく

うろ行ろ深ろろ玉ろ

学ろ

古れきの法行ふあひれ

あ移といむ

いろれえろのろ深さ

法隆寺れ尾ろ

古きはかそれかそらよとへてきゝはあとうちよるふ

鶴

ちとるまそる春やとんまる子世とも知ねちよやぬうすく
万代と思ひそあまる黄ゆつらとも毛ぬ月日ふりり

鶴二羽松りみるかゝ人はワさせるとい毛

亀

取えておとまるつるの一行ひ千世をかゝふこゝとそきく

いとまはうくよ亀ちやさきり

ふるちよはのそよるゆゝ亀ふまゝ万世はんくり

養老

かくれ里うくまみはるゆ万世はよひいたのうきうせり

三保はれのあるうを井ふ富士はなみそて鶴

乃ゆうちひるうゝ

たてをたゝ千里はは出ないよとふゆつかはるねやきとうふん

猿蓑立洲

ちみゆ川あとうまとる白猿蓑をやおのうとゆとまむ

酩たつまはまり

松かしゆくかゆめとうゝ蟹小舟ふふゝをんまをまり

柿はは木よかうきめとまつる

毛る人かふゆ山柿のゆふうをなくゆ義よとはふかや

木よみこのくれとちりゐる
んのそて月はすそ所様尾をあよみころくれこそ寺ゐる
はるの雨ふきそめのあるかく
くこそて人もものせ義ることはくるみのあふ杖ゐそもれ
牛はこう
きこはゆるきゐる牛はあゆこもちそこ日新へおゐ
きちいう万
あくこいてこるんは弱くこへはりおくるもよや世の中
やまいよみるはあるあいつきよりこをあそ
ゆりはへ理よこそふこんはるを決る

そて五よこそはまへよ行ゐるあはとれかおころすん
菊はこよ猫のはをひそるく
義はものよ世へおそへはこ義されねこあ行ちんこそう
煙はくくこひゆくかゐ
おそこふこるそこ一河こひこまかくこをこよるゐ
かこ河ゐはこうく
家屋よひこうさりあこよをへ義ゐる
鉢ゐよきひの法ちるく
鉢ゐをはるこ河はよこみそちへのむんあこくゐるゐ
岸よきひのこく

岸にたちのうつるもひきうてをるとこひのなかこそさるゝれ
ちからなき雑ぢひきまるかゝ
水にたるかりよりつとをるさひの末つひよるゐのかとをねうむとをきん
枇杷ちうゝ
いろつくて末ちひいさきのさられと枝の面も見ひるうれ
樵夫牧曲員風遅
山人にたうふる事忘おりゝ末みれてもはあゝゝ
拍板
おりろく末とうゝとかふをきをふうれめれんかりまり
をるさきをあて板根のをとうれをのとりり

きれい
よるをれい岳にたをゝみて夕ひのをををねを
長乗をををふれさりりよあをひの一むをとを
るゝと
古代中に八多末つよかるゝいりを末をれ萩をみのをを
金
分ををゝ重行りをる人をれなみを長くゝよををぬ斗に
詩
をよををくゝを之かをゝぬ学るを桜のりてい志ゝ末やるゝ音
酒

秀の万ゐ千世のよろひとのちうう公人とひとらうす

彩堂舎利会

さよ中と更ちうまりてきむ月は建立よりの時と知り給

三井寺へゆく人よりそ問うたる

世中いとみそれるんもくむとうう三井寺法師

特法橋右大臣の伺ひとくそまうれ本尊て

是一日夜一夜法華のかうを修るよ今ひとて方

ありまとしくうるは

一切はまたのみ法うは法はよりるきいやしさてきう分

然谷亜好うそ後菩提寺るり

みふるむ様と思へいぶやまうれい花かくよをうれ御ありき

玄河法師ふらみとうるふさしのきせて敬

勝隆尊重明ふとまあひて影とうて分

よむをうりうさやうある蛭のをうをる秋

ちうふのいとくおるのるまひやれく弱く死人ふを方歩祀

ちるる使みもとよりいとうるうきそ玄をつ

法よ八ちうう強ちうてきれ法人のをとよりも

はやう序杖の宝ひすやうむふとかせを

まひて

手わさを橋のあゆをれうとうれそてみをうを玄まとのよと

とまこと三尾杖をいひて比えの山張子ばみおひ
生るをとく果法とうらてまま〜なる毛まる
てまや法とまこしの赤い川こまりふとうまて
大比えの山張ふとうているさうれ色ある毛を後ろとう首を
三安哭
さうふとてこまふ毛うふさく給のそれ方ゆうく毛のをまて
翁
赤口山ちて一万代とうこ山矣里いけくの翁と人をふ
千家
名よるる千とを世ちを世をの一ひをかまねてふ毛これを衣

第年茸はの
万世をとひまるいまねすうさたいて赤ふかくそまるれ
題しこ和
第茸はまふかうふとなうこうれをやふを翁ふるむ
いうふるこふよう
生みうを毛はみかをこれを和よかくよるこ和を翁まるん
はたよまるる杖を毛はいうう昭日
新年をえとのちまこふ風をやし茸あう種のなうう年むむ
茸はこうよう毛をこれをこよ六月
茸はこうこ毛をかまるこ和をこの毛をうたのひよるるふ

吉野川いはとくるしみの大木たに河なみ捨てかすみつる　頼

なかなかにおとなりぬるうつせみはなかなかてのこ

くるひる志ら玉見えまつりかんそれぞれ河ちらいまやとも

或大徳の花は志やとか見えてはよしそとおもひて

山桜花志やとかの見えぬわかみよし野のはなやちるらん

かの人はまゐるとほふをと

聞しといふ世にいはれぬなきをとほふはなかなか

まだみぬ人のうきをゆくとたへまで

見えぬ仙人の花にみなともみる一の形

眉朱貞紀のよりなかとゞいてかへるときく

るもて

志らつむるかね木て佐渡なるきそひよのみちかへりみるべし

立いでてみかくる旅近くに雲霧の旅寝やそて濡るとこそ

題しらず

あさゆふにかくる流れのあらんとうかつるくさのやまの有

あづまよりくにへかへるを

ますらをの道をさよりいそぐ旅のいでたつ

旅行

たびをとなかのとよしてゆくすゑもしひらねば万よ旅よさかる

旅夏

さりとてはかくひとかたならぬ夏の夜のやまのはにかゝるとおもひ
かすかに見ゆるほとなる夏のみしかき夜のあけやすきなりけり

羇中夏

ぬれつゝもゆくむかしのとかれもせぬ身をおもふに思ひつゝぞ

江戸にまかるとて

麦かるとおきなをひとりとゝめおきてふしかねやよしとこそ さらぬ
ゆくへしらぬたまのをすぢてもたもしくさくなかる袖のなみださらに
なれきぬるみちなかりせばなつくさのしげみをわけてぞ入けむや 夏のみち
越へ入りけるとてかもかのさとなる愛宕
形をとゞにておくみちまでよめる

青やかにかゝる松のえだにたちのみちによむなるなりとてよめり
松のしたみちにてよめる

なにとなくこゝろにかゝるものを雲かれてそらのうらうらのかげさわぐ 逢
箱根路をわがこえくればこゆるきの磯のさゞなみゆふかげのちゃ
ゆうこむまつやひさちの松に松はあきいにしへてみて
旅の道にはみのあきかの雨るはなれて
世のなかはさやかにきれたるなかにきのちやひかればひとりにして
さむりは條なる浴成園の十二家とかある
或は枳殻邸とかいつかはる東の河原院の
あとなり

[illegible]

双林寺

梅のみわかい彩の梅もいろもかをりかな

嘯枕居

[illegible]

[illegible]堂

[illegible]

縮遠亭

[illegible]

又松橋

[illegible]

侵雪橋

[illegible]

紫苑岸

[illegible]

丹楓俣

[illegible]

迴梅橋

[illegible]

停花園

[illegible]

きゝふれいかさまのいろ相ほんてゝ一むらゝ紅葉のもゝ

滴翠軒

さらおれ人きゝ染めたのまゝあふきるいろ紅葉する也ろ

おりむ色のさゝかゝりてゝ冬ろハよみゝと

しゝと人のいつるを

名ゆゝるきかゝるちゝみのとのうちよいてゝみたもむやゝとと

うのえ

述懐

うゝひまうゝ双これいちもろくゝうゝゆる分を縁ゝうゝ

きゝちゝ紅葉みのゝ人今ゆゝ人ひぬゝ一色むよゝとおのゝ冬ゝと思ふ

人ゝゝよ行ゝ思いかゝゝれゝかゝゝねゝのハ涙ゝゝろ

山ゝとふハとせハんゝゝれゝゝおのゝよハゝゝゝゝゝてゝゝ紅葉と

色てゝよふいゝとゝゝる分をゝつゝれゝつゝふのみゝゝむゝろ紅葉

みゝゝきゝゝゝゝゝくゝと思ゝゝも生まるハ袖のゝゝさゝゝゝゝゝ

乱ゝゝゝゝゝてゝかゝゝふ拾ゝふむやゝと拾ゝゝ人ゝよゝゝ二く

雲の月述懐

いゝゝくゝゝけゝれゝてゝゝゝゝむ大やゝ紅月ゝゝゝをのかゝるゝのゝよゝを

雲の山述懐

ゝゝゝゝゝゝ紅ゝみゝゝの夏ゝゝ侍ゝゝ山ゝゝのみゝゝゝゝゝゝゝゝみゝ

野しゝゝ

立ゝよゝゝてゝゝゝれゝゝゝゝ岸根のゝひてゝゝゝゝむゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

世中よりといはるたえてひさしくのすてと思ふるか
ふるさとをふるてくまあり[illegible]と宝のよねを[illegible]
嘯月尼
さらて
[illegible]
[illegible]
せやみとつくるるをうとくなれよひと
くもていとあさま
かゝ[illegible]
[illegible]

羨

あくまてをふゆふるぬるかたちやもせ[illegible]
懐旧
[illegible]
[illegible]
其如法師
[illegible]
酒井家[illegible]
[illegible]
松井梅月
[illegible]

野里つゞきせし秋の中霧にハおかりけんそこら人をしらぬなかなる

三宅意誠か三四百首のうち冬懐旧

神無月志くれとともに枯葉のみちりしく庭の見ひいつゝまで

月前懐旧

いにしへのよを明ぬ月のなごりの露おきまさる袖かな、

某画像のさん

おもかげのそのむかしにかはらねバかはるそよ世をうき身とハしれ

うつしこそかゝる絵ありしかと見て

あり西山松のなひく霧にそむきしもさびしくみえけれ

仙洞のくれゝ世を経ひるところ墨跡不及女房

のかにかゝる桜と山路をしるしてしらしめられけり

しれを

あれはつる一条山路やたゞかさねていつのまゝみすてら

筑後守藤文かちか十三四百首に追悼の哥

とてらみて川うちする

志ゝみ花をあらて足川筆ハ袖のなかれかな

大機院殿の十七回忌によみてまゐらせる

法の露のみちをひきて有明の川さへよみかはるゝな

正行院殿のみまへ手向まゐらせて

覧一周忌を以題と

長月たつ明のけさぬるゝゆえいとゝねさめのかさるとしを
愛宕とかへて衣たうゝよこうゝ更のみこまかたのゝれはれ

二條実房更衣遠忌

七月の有明の月もおもてもいくよをてゝもみえそめるゝん
限あるこよ世をてゝるを生れといよゝ哀ふかき兼実

清涼寺ふかうつ秋いのことかのさひていとゝふ
みさゝをたゝをて五つをて

世中ふかいこる人名れ更をれを去の下まそかうする
かゝへるゝ小殺れ唐のみちをとかうて
ちゝちくかうをてゝをむそ

めれみまれるゆゝよを失る
うちとゝそなるゝまよみゆれゝもゝゝ孫かうへさゝゝ
かくてれへのかくゝふゝしてれちよゝる
いゝゝれハ侍第名よゆくく人れ霧ゝるふをれてゝかくん
あひたゝる人のみまれるをいゝさて
吾人れとくかうくるゝゝふくひふゝ仏世ゝゝ
今を名ゆゝハゝのよれゝてゝれをの爰ゝうてこゝう
秋氏ゝ母の辞世の句れ文字を白法かゝ
おゝそよゝる
ゝをみをゝ侍ゆゝ八百ゝて明出ハ林ゝ名ゝれゝゝん

梶の宗明尼みまうるゆかるひともあまた
とんまうせぬるとかうしゝハ
きゝなれたやとも乳とものちふたゝびかきふ紙をれ
をさふさをとうしちひるとき
ふるさとのよれまとおかなゝまよつれる軒しのぶ
ちりうやあひのとをりて
たるゝあをもしたきよりるちてのゝ山ねみをつ素かれ有り
信濃空色
山桜いろハむすとをくけるまひらるのゝんちうう
低園舎

書おき年代をうゝ思ひいてねるそくゆゝとみをふ侍らん
蓬茅山
ふれうむ毫れよゝの方世よ千世をかさゆる門の毛衣
ゆ秋亭代をよ桜ゆみちふとうをうるを
をゝをて更うゆめしむちゝ秋ハ去ゆをみちゆとるをうう
江見長載の年賀
ゆをゆみうくゝうちまをうるを梯をうゝ秋ゆうゝん
越後人九十賀
いつまをゝ後しく雪代ゆくゆうみをゝまよゝうねうゝ代をゝ
人の賀れ高の有

生といふ所をむかへ山先ヤ子世とうるまうゆゑ
近藤弘実義をむまれ八十八のとをかうれ
いたゝきをみてと荻原真起うもとゝ
まよ松上義ねとゝ髭をいうてをみて川そ
しる
きをとゝきをもをまつよかうゝ家代ちゝみれもれ
なる人代之十賀よよ矣ゝ
恙をゝ更ゝ堂のむかとせれをゝもあひよるゝ
越後人歳生八十賀ゝ松樹千年とゝ古
を祝

安くゝ西むゝ更をゝうゝをて子年とゝ松よらひと思ひるゝ
松樹千年とゝ人ゝとと人の賀をゝ
りまよゝ西むゝ更をとゝあつれゝ子とせれ後のをゝう也ゝ
三条西義之十賀ゝ
更ゝれいつもゝつゝれ後ゝ山ゝ松ゝ西むよゝひいくよゝるん
鶴二羽をゝう
たれつゝ時もをゝて子をゝる支つる代千世のゝうなるゝうゝ子ね
ゆゝうゝるゝりゝのをゝうもゝ松ゝ子ゝ世とゝ思ゝれやれ
人使賀ゝ
をゝうゝ安ゆゝる志のゝとゝ子みゝかゝうて子世とゝするゝうゝ

祝

よつひとゝやをかいたもゆつるゝすよふ勅至天二万世永
天の代をいのゝぬみよハそれとも神ぬうゝ今のされみら
桂のたちを考ハ下絵

香川長つ妙家集

仲田義右衛つ校正

天保十四年卯十月

江戸下谷広成院

書林　青雲堂英文蔵梓

天下と一方　登龍丸　金物一切き合ハ

一包　代百文

一巡り　代六百五十文

此薬丸ハ天下一方我家の秘法にて疝癪当帰一毒の神薬
なり延享十年世年疝癪ふく込下絵痛之品ハ我がゝ文蔵帰
ゆく気ハ我ゆゑ紀絢癪義疝を療す我秘も味さ疝ハ桂
亦紀ハ一巡り数年末の秘疝ハ三巡りも再ゆる時ハ忘まてこそ
ゆく疝と治し嘔吐ハ胸を開さ病全くいゆるゆ
熱ハ見ゆ開く人気の疝まと補ひ乳血を巡らし脾胃
調へ気力をはしまを立ハやうゆ笑者と費しこ

病延命なるの数万人用ひ試て其功の大なるの古今無双
希代不思議の妙薬也其功尤に著る所
一 十年廿年喘息　一 労瘵の症　一 引風の症
一 からせき　一 咽喉ぜりつき　一 痰飲痞結声出ず
一 痰に血交り　一 痰飲出ても出ず　一 動気はよく怔忡
一 小児百日咳　一 婦人産前産後の症　一 溜飲ふて胸痛
一 溜飲ふて気塞り　一 酒外痰咳溜飲より起る病一切によし
一 青病とはいふ人多く用ゆる者は病を治るの其妙なり
肺病の薬首より法の出処にもなく奏業にも新くふ成て

引れ出ハ痰咳ハ云ふ及ばず肺癰痰喉迄も速に治ることの
ども痰咳溜飲の一病と雑治し難き病是得ての此咳症に
年久しき痰咳溜飲ふて医療手をつくし百薬試用ゆると雑
治ざる紀痼疾ふてもすみやかに治し其薬ハ我が家の秘法にて万人
を救ふて試るに一人として治せざるハ無く依て天下無双の妙薬
ふて他に類なき妙なるがゆゑ其功能速なるといへども小児
薬ハ殊に婦人産前産後に用ひ害なきと毎に能く
用ひて病を治するの妙なる縁家業の
江戸包紙ふ冊略く云大かける所元次所ふて此所

東叡山御用御書物所　江戸下谷御成道

青雲堂英文藏製

京都三条寺町	出雲寺文次郎	摂州西宮浦	大木次郎
大坂心斎橋筋二丁目	河内屋茂兵衛	出羽山形十日町	大坂屋次郎兵衛
浪華江川町	山本屋伊兵衛	信濃松本横町	和泉屋武右衛門
伊勢松阪市場	近江屋重蔵	同松本	茂右屋横平治
同宮川一之鳥居前	大津屋武兵衛	同若松町	本屋屋喜兵衛
同宮川外宮前	中村屋長助	同上田	住屋重兵衛
同桑名	中津屋平助	越後高田	角屋七郎兵衛
尾張熱田町前	山惣屋孫十郎	同高田	紅屋八郎兵衛
紀州和歌山	玉屋長兵衛	下野宇都宮	塩屋惣兵衛
同熊野宮川	角屋若助	常陸土浦	鶴本松七
奥州仙台荒町	伊勢屋吉次郎	同若松町	住本屋長兵衛
同本庄町芝松	秋田屋八四郎	江戸石町十軒店	英文堂

早稲田大学図書館
011888007905